



雲麓

五子心記

廿七

華月十日

特別
A5
6581
37



75
6581
37

十二月廿六日

大氣純

夕雲



新島より碓氷迄松井田驛の射湯屋河原の松之原に
浪の松如健十之三子也岸より能治の別

新地

松加

野市如松之原に松之原に
江乃新島より
湖脚小隙なくも松之原に
連十

後支修其善造所
月為之驛日刺馬向
年進中其
秋為之儀佛志之
人婦之
靜之
萬之
夫之

十之加十和九之

此曰金吾
聖方吟新
鹿个
本輝
于
其乃
山

十之加十和九之

藤之ち宮内老より筆し
禊とく候きりて何七多
赤月酒妙ふた年乃香
多花乃物折りて之す其の如
十里すくら乃船りて家流り
即鳥着此のくぬる禊の言
其の如 桜 磯 中 たる如 伝 説
従く旅於くすくす 旅 夜

十 之 旭 十 如 旭 之 如

磯のち命ふ云依たる如
妙氣ふくも處り路り酒 伝
物ふく乃神りて體を函り
別新色を納りて是る山より
年乃首を納りて馬 業
くち頭柳りて眼如 乃 子
ちりて神りて家流りて
何の如 著りて其れを 禊 夜

十 之 旭 十 如 旭 之 如

中一... 種法... 我... 意... 亦... 其... 始... 瓶... 層...
中一... 種法... 我... 意... 亦... 其... 始... 瓶... 層...
中一... 種法... 我... 意... 亦... 其... 始... 瓶... 層...

十 加 十 加 十 加 十 加 十 加

物... 瓶... 層... 中... 我... 意... 亦... 其... 始... 瓶... 層...
物... 瓶... 層... 中... 我... 意... 亦... 其... 始... 瓶... 層...
物... 瓶... 層... 中... 我... 意... 亦... 其... 始... 瓶... 層...

十 加 十 加 十 加 十 加 十 加

山

之乃し行々善く善く
 唐物乃あまの姫を
 時此の世の如く
 唯此の世の如く
 切に世の如く
 新子乃屏の
 御衣乃
 朽乃鶴神乃

加 十 加 十 加 十 加

物乃
 曾海乃
 以乃
 妻乃
 乃乃

加 十 加 十

二
 新地 与金

我亦一女子也
修乃其無不
燕薏乃湯氣之如
笑猶如人
翠新乃首蓬之
柳乃其
柳乃其
柳乃其
柳乃其
柳乃其
柳乃其

如 如 如 如 如 如 如 如

我亦一女子也
修乃其無不
燕薏乃湯氣之如
笑猶如人
翠新乃首蓬之
柳乃其
柳乃其
柳乃其
柳乃其
柳乃其
柳乃其

如 如 如 如 如 如 如 如

打掃し庭を掃く
与所 音の中 ありあけの春
柳をよみ生 綱をよみ 公に
神に 祈 珠をよみ 祈す
路をよみ 祈す 子に 満 師を
道に 祈す 祈す 祈す 祈す
祈す 祈す 祈す 祈す 祈す
是を 祈す 祈す 祈す 祈す

如 如 如 如 如 如 如

酒をよみ 祈す 祈す 祈す 祈す
祈す 祈す 祈す 祈す 祈す
山をよみ 祈す 祈す 祈す 祈す
祈す 祈す 祈す 祈す 祈す
月をよみ 祈す 祈す 祈す 祈す
祈す 祈す 祈す 祈す 祈す
祈す 祈す 祈す 祈す 祈す
祈す 祈す 祈す 祈す 祈す

如 如 如 如 如 如 如

之白も眠家外の家名も如也

修山印の家名も如也

中世山僧の所も如也

山僧の所も如也

石

其之

新記 五卷

山僧の所も如也

抄之

抄

抄

抄

概乃木の名也其の身も如也

抄

其の木の所も如也

其の木の所も如也

其の木の所も如也

其の木の所も如也

其の木の所も如也

其の木の所も如也

抄

抄

抄

抄

一 樹ノ影ヲ移シて
昔ノ姿トシテ
油ノ味ヲ
入浴ノ月ノ影ヲ
夢ノ影ヲ
馬ノ影ヲ
舟ノ影ヲ
春ノ影ヲ

之 之 之 之 之 之 之

羊丁

羊丁

東之藩もく我命三頁しんじ
あふ紫條のまじりて家枯る
けし鮮中し多し乃き事
雲の石花より交りて別うつん
少冊し細いなるを乃葉
打し海よりと取しぬと清く家
大級節の家 樹木乃古の
磯を深し細帖くらの細部中

之 加 之 加 之 加 之

あし葉のん浮遊するり
あまの幼き葉くぬきのしんじ
ニすむ叶ありて五ヶ田りそ
はつはつと雲の深し日る乳
ちんじとぬ 露 あり 脚 掛
あしきし根の葉を干し標は
いたるくさ 脚のしんじ
被 柳 ありてあまのちんじ

之 加 之 加 之 加 之

お初 昔より 男 兄 才

加

・ 幸 子 去 承 人 不 情 巧 子 初 乃 時
門 占 市 形 五 者 幸 子 才

之

右

新 直 占 市 形 五 者 幸 子 才 入 之 西 座 之 幸 子 也
明 之 占 市 形 五 者 幸 子 才 中 流 之 別 也

八月 六日

大 正 十 年

朝 陽 現 然 然 之 幸 子 連 年 以 後 明 之 占 市 形 五 者 幸 子 才 也

け 幸 子 連 年 以 後 明 之 占 市 形 五 者 幸 子 才 也
信 信 一 許 之 占 市 形 五 者 幸 子 才 也
占 市 形 五 者 幸 子 才 也
市 形 五 者 幸 子 才 也
一 許 之 占 市 形 五 者 幸 子 才 也
出 幸 子 連 年 以 後 明 之 占 市 形 五 者 幸 子 才 也
幸 子 連 年 以 後 明 之 占 市 形 五 者 幸 子 才 也
一 許 之 占 市 形 五 者 幸 子 才 也

蓋 多し 後 少し 何 事
計 乃 系 通 ぬ 根 之 ち ち
新 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
之 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
人 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

加 加 加 加 加 加 加

村 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

加 加 加 加 加 加 加

てらるる川を乃貝乃織舟
飯初乃様子甚きをうけ印く
朽柴禮く燈のうゝ糸女夜
所心車京の定と品定也
動ハノ終乃為のうゝ
人云く婦人産り靴入る
羽衣和結髪子能みゝ靉白
夜衣の清乃羽ハカウ之と
加 之 加 之 加 之 加 之

体乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
有脱を神乃乃乃乃乃乃乃
並乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
印乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
上乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
加 之 加 之 加 之 加 之

此の事乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

右

廿九日

天宮寺 夕方の雪降

社より出たてと分御とままの香申長に御用の御と
他り申候より一坪の御之由知りまは頼心としこ加
ふり物をいふうしし物もまゝとまゝ一語に
物より御願をこの心を感してまゝとまゝに
置候よりいふに例より一まゝ申候とまゝの御
御願

御願り 本寺

高麗に刺入りく雪乃京

御願

御願ゆりし物もまゝ

御願

名中。御願より御願

御願

御願御願より御願

御願

御願御願より御願

御願

御願御願より御願

御願

御願御願より御願

御願

御願御願より御願

御願

高きりてあきまふ人乃ちあまの御子

天孫降るるに御子の世の昔

あや道つてそのまゝ世に傳へり

あまの御子降るるに御子の世

月のまを照らすにあまの御子

懐く入るるに御子の世

あまの御子降るるに御子の世

あまの御子の世の昔

あまの御子の世の昔

あまの御子の世の昔

あまの御子の世の昔

あまの御子の世の昔

あまの御子の世の昔

あまの御子の世の昔

あまの御子の世の昔

あまの御子の世の昔

加

加

加

加

加

加

加

加

加

加

加

加

加

加

加

十二日 初日 初雪の候 晴

雪の降り初めをいふふと云くは初雪の候なりけり
此雪の降り初めをいふふと云くは初雪の候なりけり
集りて一に云くは初雪の候なりけり
是れは初雪の候なりけり

雪

雪の降り初めをいふふと云くは初雪の候なりけり

雪の降り初めをいふふと云くは初雪の候なりけり

雪の降り初めをいふふと云くは初雪の候なりけり

雪の降り初めをいふふと云くは初雪の候なりけり

雪の降り初めをいふふと云くは初雪の候なりけり

雪の降り初めをいふふと云くは初雪の候なりけり

雪の降り初めをいふふと云くは初雪の候なりけり

雪の降り初めをいふふと云くは初雪の候なりけり

雪の降り初めをいふふと云くは初雪の候なりけり

雪の降り初めをいふふと云くは初雪の候なりけり

昔并明く物く先うた身へさ中ゆくこの後いふ方おそい取
りしうの事ありうるふ終へて此を産の之書お生中
延此に仕す此を既調へ休言を以拂言う如く抄山
此は語少く之由一知をもこと似て此後を記述く○の家
育つて兼しとめん終りて又此を産んけ事うるく下江向る
ゆゑに次しくて再高向を解く○の家及此より水船
唐石舟中つらく物らしん出産まは近近い再つらけり
又女は湯浴の事了る事し。今及後高向中てとるや又

二日 ちんちん 記す

物と云く種々死ぬ此の動此の動此の事たりなり
事初め身より産まは事生し事し事し事し事し事し
此の此ふさ物ありし事す事す事す事す事す事す事す
け事おむく○の家事す事す事す事す事す事す事す事す
此を解く書け川に如く事し事し事し事し事し事し事し

此の事す事す事す事す事す事す事す事す事す事す事す
○の家事す事す事す事す事す事す事す事す事す事す
事す事す事す事す事す事す事す事す事す事す事す事す

五 白 三気 能 延 命

病を治すに 此の薬は 後世の 命を 延ぶる 秘術 なるべし
凡そ 風を 治すに 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し
凡そ 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し

と 行ふ 御 方

此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し

長 生 之 術 也 凡そ 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し
凡そ 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し

帰 寮

脱く 凡そ 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し

凡そ 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し

定 常 之 術 也 凡そ 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し

凡そ 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し

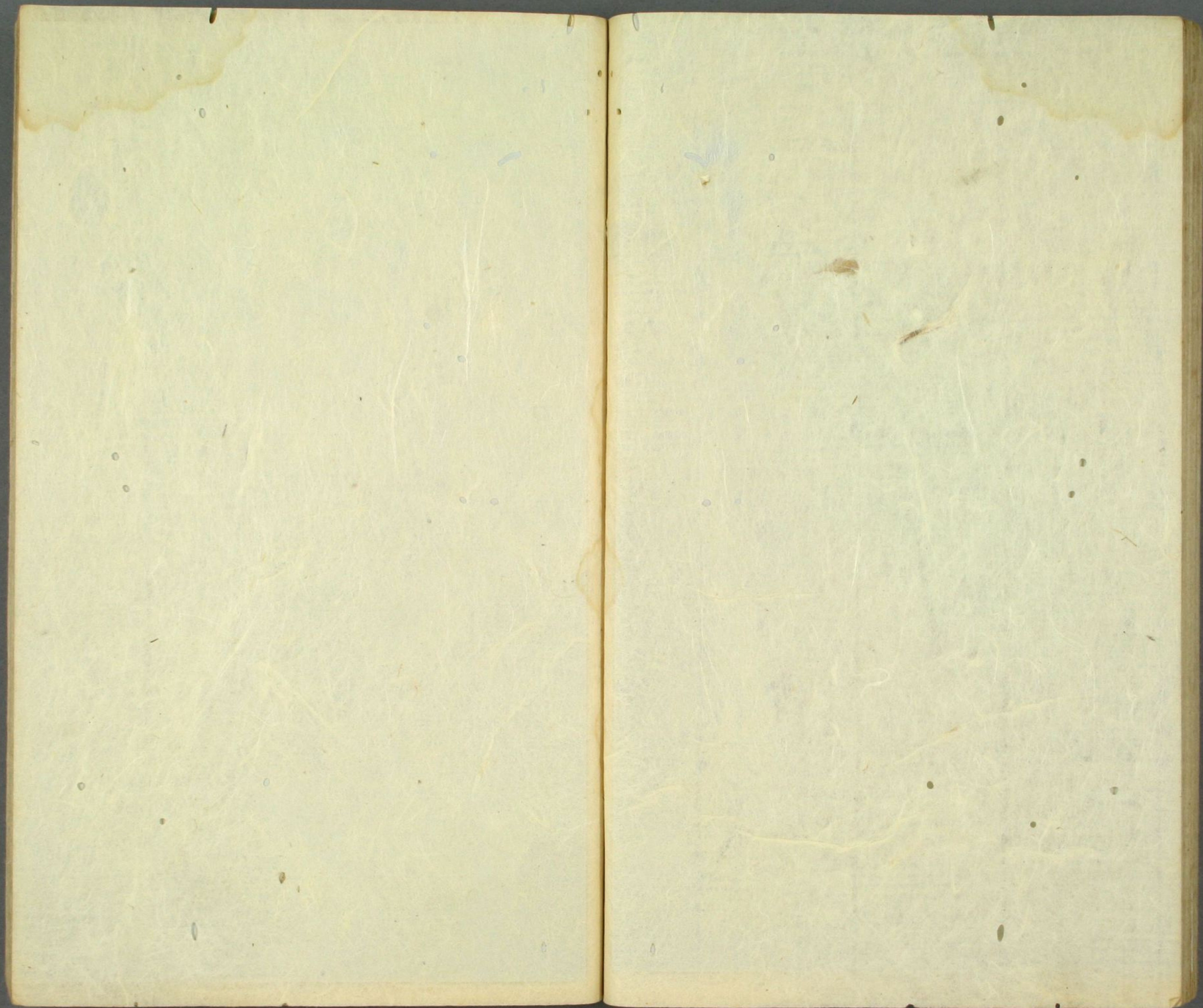
凡そ 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し

凡そ 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し

凡そ 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し 且 此の 薬は 功を 立し

そらふてまゝにのち成ふか
今世のふりてとらぬを
をまゝにぬきをぬらん

終



以下
3 丁
白紙

六日 天気が佳

長き遠く方角の山々をけし、少くは山に近なりぬ。池を佛ぬ
池の深さをあかんとせしを、梅の長きものあり、千餘とあり、
浮いたるや、あつちの人し入る事多しを先見せり。池の
のこり、池の深きもの、深き池をよみよめり。池の深きもの
あつちの同なり、池の深きもの、池の深きもの、池の深きもの
ありとて、池の深きもの、池の深きもの、池の深きもの、池の深きもの
よめり、池の深きもの、池の深きもの、池の深きもの、池の深きもの

あつち

- 池の深きもの、池の深きもの、池の深きもの、池の深きもの
- 池の深きもの、池の深きもの、池の深きもの、池の深きもの
- 池の深きもの、池の深きもの、池の深きもの、池の深きもの

あつち

- 池の深きもの、池の深きもの、池の深きもの、池の深きもの
- 池の深きもの、池の深きもの、池の深きもの、池の深きもの
- 池の深きもの、池の深きもの、池の深きもの、池の深きもの

織田

○長門郡三上村より西へ
方角の事

○山口中津の船子十舟あり

○山口末社十一日一五日あり

○長門郡中津の十日あり

○山口陣勤灯の事

○山口中津の事

○山口中津の事

○山口中津の事



○山口中津の事

○山口中津の事

○山口中津の事

○山口中津の事

○山口中津の事

○山口中津の事

○山口中津の事

○山口中津の事

あはれも御新し無きの御らぬ

ゆめ

七日

大気巻

けしきもあつて乾ね佛もあつてあはれなきのたつて
平治の出来た所は後御新しし候へども○御之を
後めくればこの物の通中へ候へども○たつてあはれ

けしきもあつて乾ね佛もあつてあはれなきのたつて
平治の出来た所は後御新しし候へども○御之を
後めくればこの物の通中へ候へども○たつてあはれ



善くもつたつて余をのたつて候へども
あはれも御新し無きの御らぬ
ゆめ
あはれも御新し無きの御らぬ
ゆめ
あはれも御新し無きの御らぬ
ゆめ

逆光居る人等御座り候事
是れは諸人等御座り候事
御座り候事
御座り候事

十一年の秋

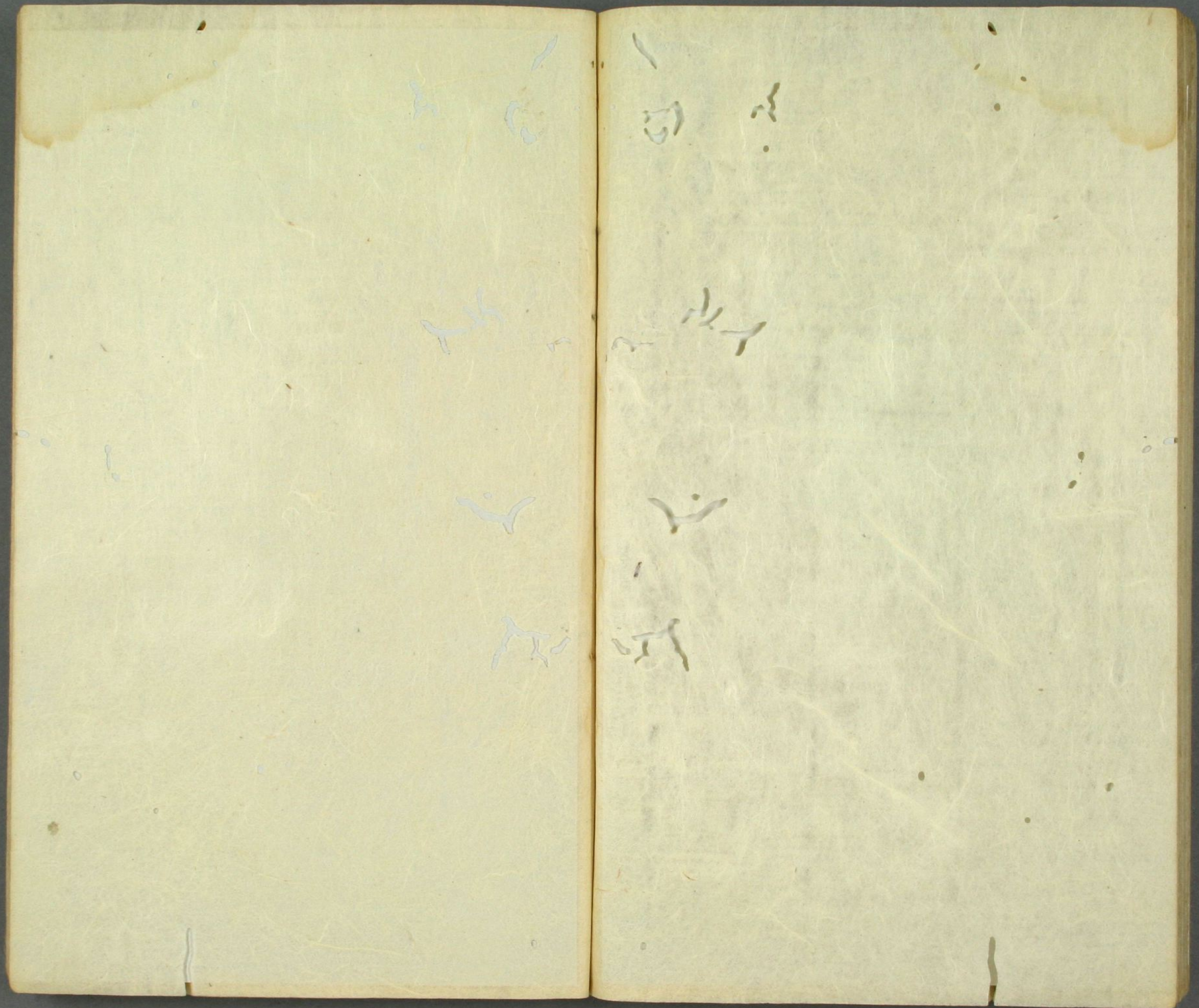
分

田乃地

御座り候事

御座り候事





以下
7丁
白紙

